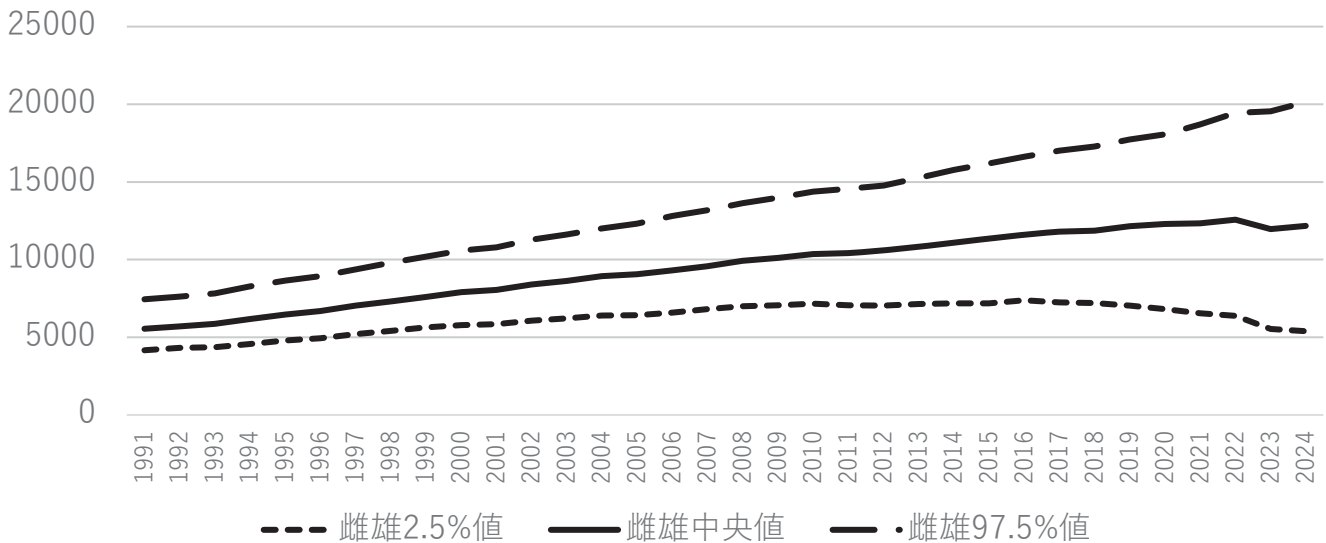


令和 8 年度第 1 回 ヒグマ保護管理検討会参考資料 (令和8年 6 月 3 日開催) から抜粋

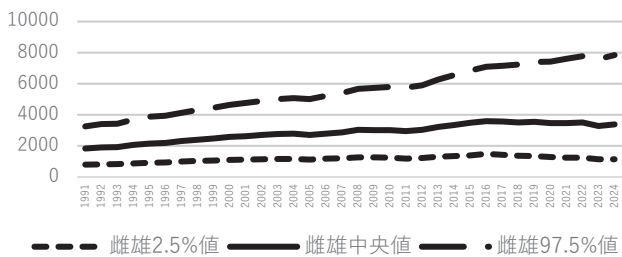
1. 生息状況
2. 人身被害の状況
3. 農林水産業被害の状況
4. 捕獲の状況
5. 個体数管理の状況
6. ゾーニング管理の取組状況
7. 野生鳥獣の捕獲・管理体制のあり方検討部会
令和 8 年第 2 回開催概要

1. 生息状況

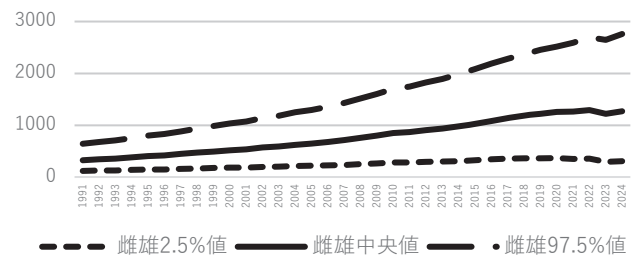
令和6年末（2024年末）時点のヒグマの個体数推定結果（全道）



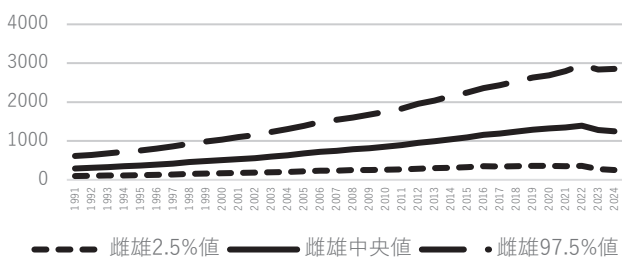
渡島半島



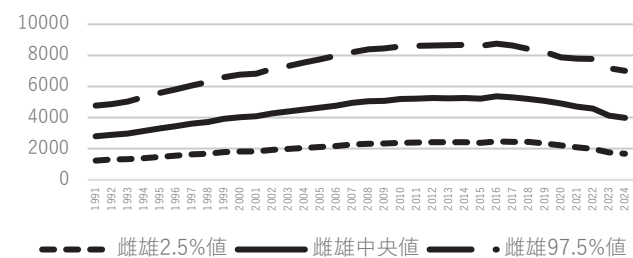
積丹・恵庭



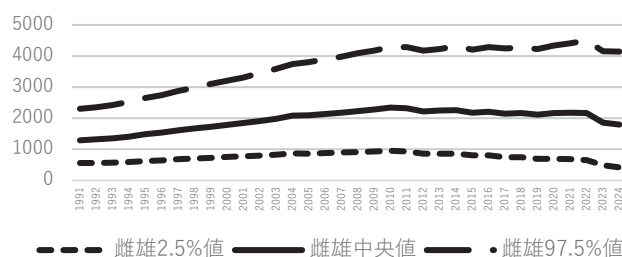
天塩・増毛



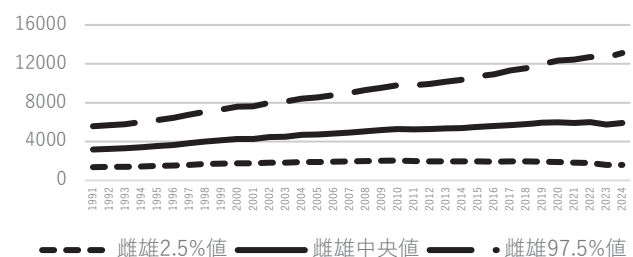
道東・宗谷（西部）



道東・宗谷（東部）

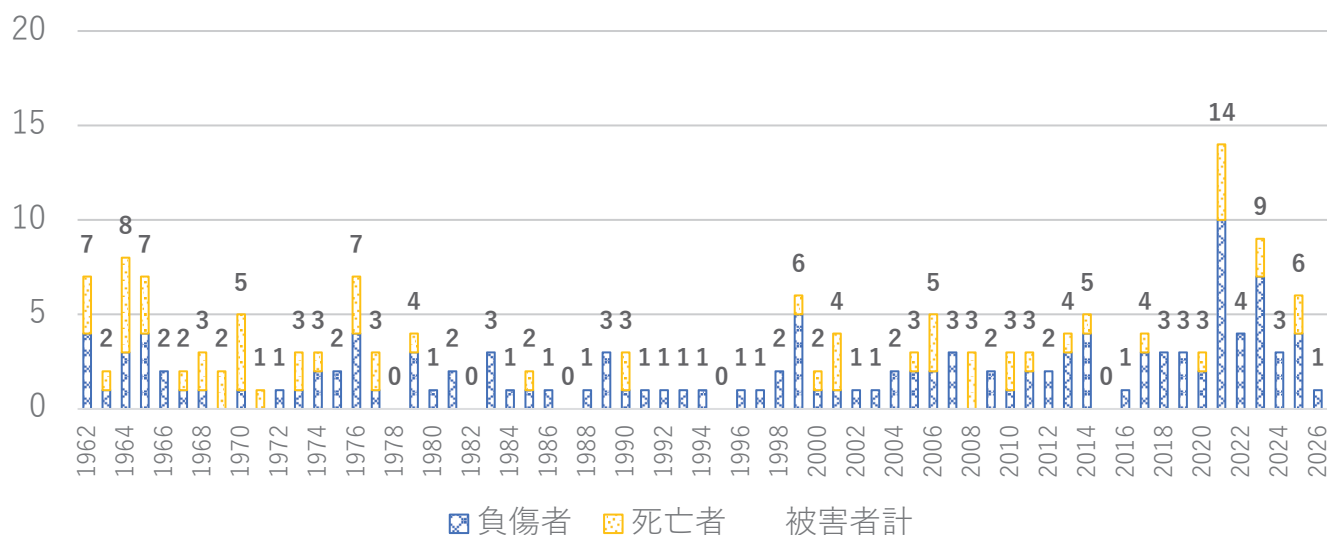


日高・夕張



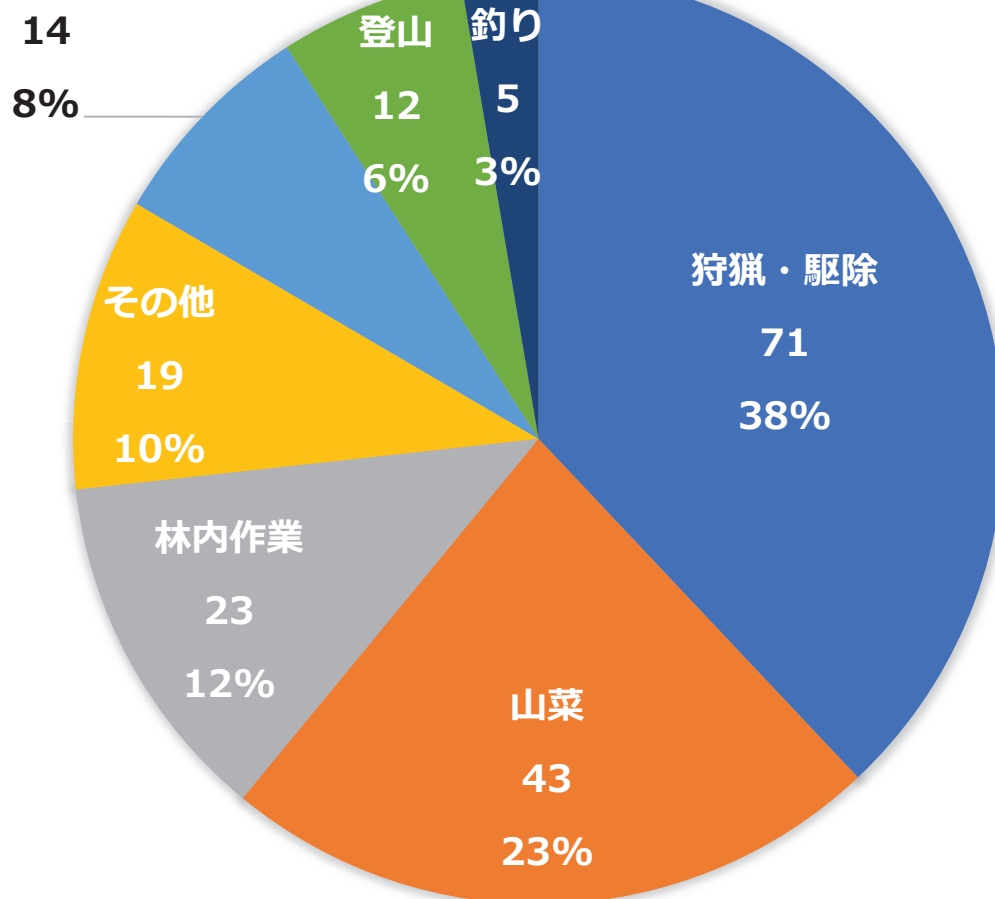
2. 人身被害の状況

ヒグマによる人身被害の発生状況_187名 (S37~R8.4月)

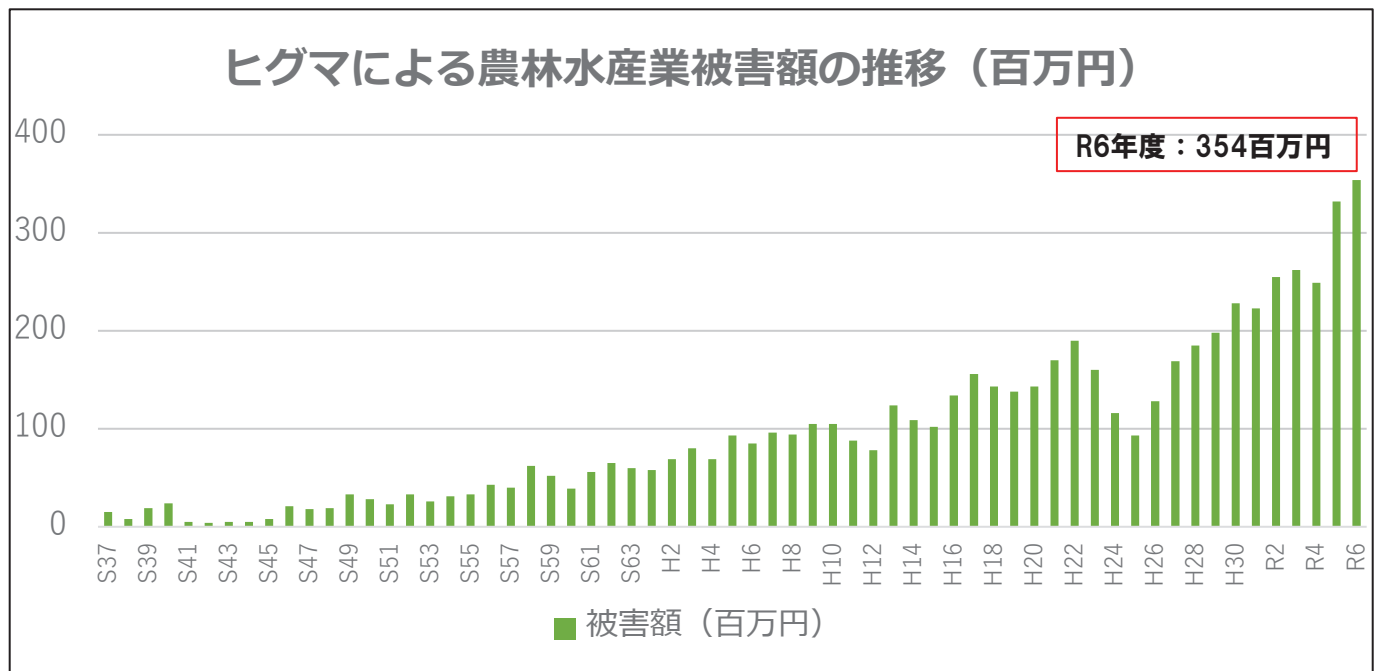


被害発生時の活動内容 (S37~R8.4月)

農作業



3. 農林水産業被害の状況



★第2期計画期間中の主な被害農作物

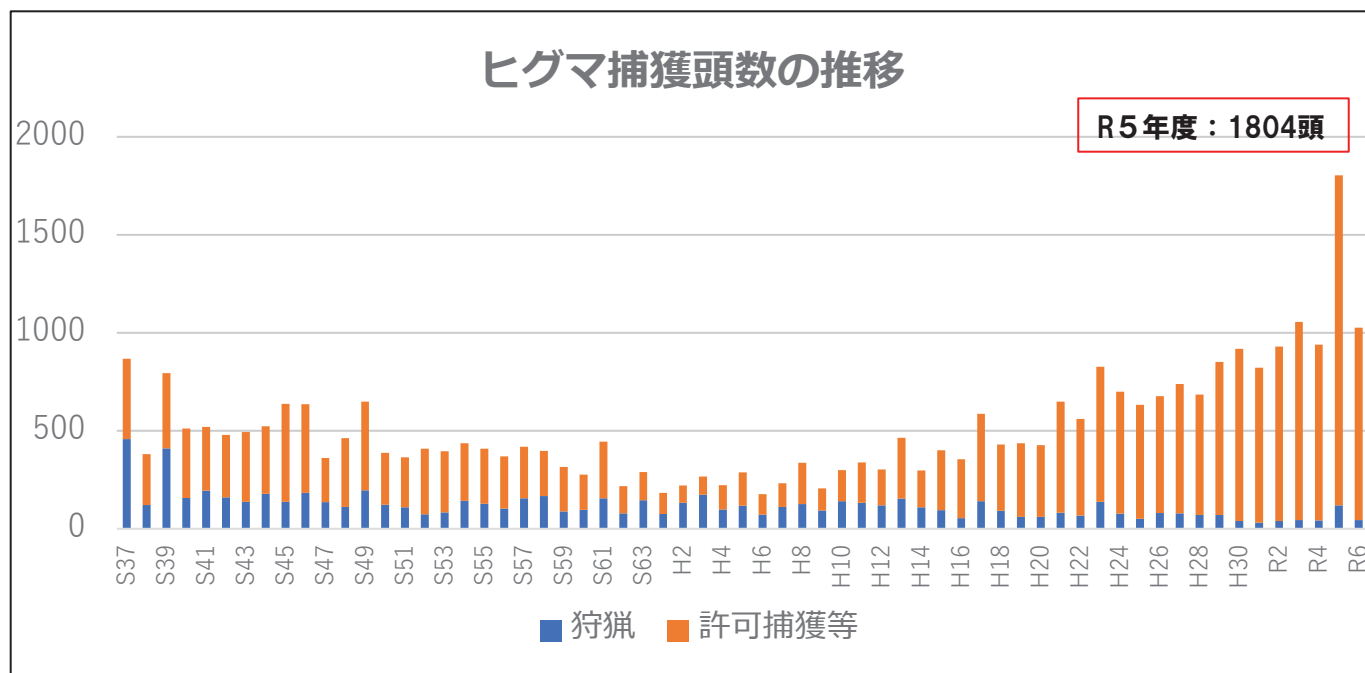
- ・デントコーン
- ・ビート
- ・スイートコーン
- ・小麦
- ・牧草

- ・道東の一部地域では、令和元年度（2019年度）から令和5年度（2023年度）にかけて、ヒグマによる放牧中の家畜（乳牛）被害が発生

- ・令和6年度（2024年度）： 3億5,400万円 ※ 過去最大
内、デントコーン被害： 1億9,400万円 約55%

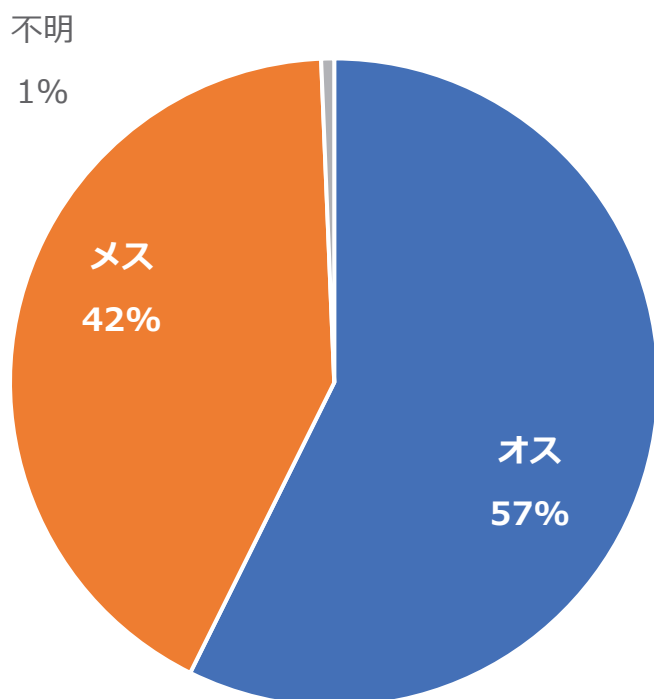
→ デントコーンは背丈が高いため、畑にヒグマが入り込んでも発見しづらく気付いたときには被害が大きくなっている傾向

4. 捕獲の状況

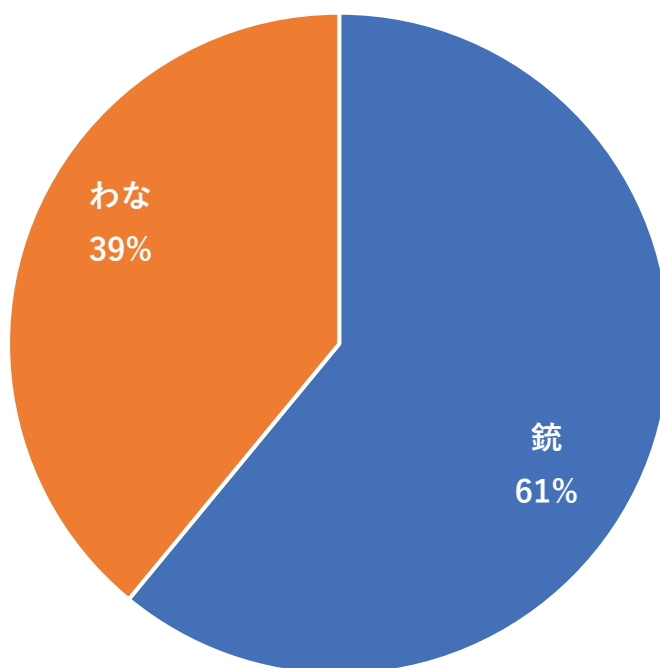


平成13年度～令和6年度までにおける捕獲の状況

雌雄別捕獲数の割合



許可捕獲等の猟法別捕獲数の割合



5. 個体数管理の状況

【令和8年版】あつれきを低減させるための措置「捕獲目標」
(北海道ヒグマ管理計画(第2期)改定版 第2章の3の(3)の③のアの(ウ)関係)

管理措置	あつれき低減措置	☒ 渡島半島 ☒ 樺丹・恵庭 ☒ 天塩・増毛 ☒ 道東・宗谷西部 ☒ 道東・宗谷東部 ☒ 日高・夕張 ※ 個体数水準やあつれきの状況から、管理措置が「あつれき低減措置」とされた地域個体群は、チェックを記入
------	----------	---

管理措置が「あつれき低減措置」とされている地域個体群では、次の捕獲目標を設定し個体数管理を行う。

地域個体群		2024(R6)年末推定生息数(中央値)	目指す個体数水準時期	目指す推定生息数(中央値)	2025(R7)年～2034(R16)年 の総捕獲目標数(うちメス捕獲数)	達成時期	
		指数		指数			
① 渡島半島		2,230	2001(H13)年～ 2010(H22)年	1,600	2,470 (770)	2034(R16)年	
		112		80			
② 樺丹・恵庭		960	2001(H13)年～ 2010(H22)年	440	1,230 (390)		
		143		66			
③ 天塩・増毛		1,000	2001(H13)年～ 2010(H22)年	470	1,270 (410)		
		137		64			
④ 道東・宗谷		3,670		2,970	3,840 (1,230)		
	a 西部	2,290		1996年(H8)～ 2000(H12)年	2,000		2,300 (710)
		80			70		
	b 東部	1,380		1996年(H8)～ 2000(H12)年	970		1,540 (520)
		99			69		
⑤ 日高・夕張		4,330	2001(H13)年～ 2010(H22)年	2,900	4,920 (1,720)		
		126		85			
全道合計		12,190		8,380	13,730 (4,520)		

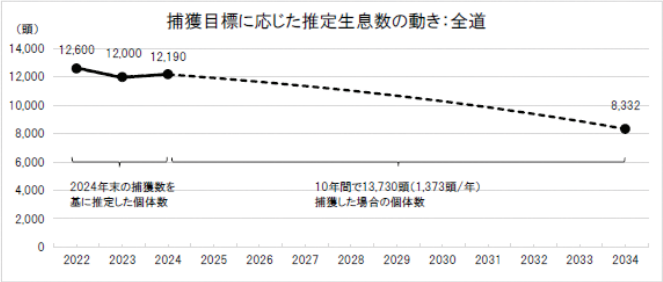
※ ④道東・宗谷b東部には、知床半島ヒグマ管理計画による対象地域を含む。
※ 「推定生息数(中央値)」は、2024年(令和6年)末時点で推定した結果による個体数(一位四捨五入)。
※ 目指す個体数水準時期の「推定生息数」は、目指す時期の2024年(令和6年)時点の推定生息数から、各年の推定生息数(中央値)を割り出し、それらの中央値について、上位2桁未満を四捨五入したもの。
※ 目指す個体数水準の「指数」は、2014年(平成26年)末時点と100としたときの個体数指数。
※ 「捕獲目標数」の算出に使用したヒグマの「推定増加率」は、渡島半島における1991～2020年の個体数推定値から算出した値の最大値1.092をすべての地域に用いた。
※ 「推定増加率」は、捕獲がなかった場合の個体群の増加率を推定したもの。みかけの増加率(出生、自然死亡、移出入、捕獲といった個体数の増減に関わるすべての要因を考慮した増加率)から捕獲の影響を除外したもので、個体数推定モデル(第2期計画で使用)により推定された個体数と過去の捕獲数から算出する。
※ 「メス捕獲割合」は、各地域個体群ごとに直近10年間(2013～2022年)に捕獲されたメスの割合(実績値)で以下の値。ただし、樺丹・恵庭地域及び天塩・増毛地域は、捕獲個体数が少ないため、全道平均値を使用した。各地域個体群のメス捕獲割合は次のとおり。【渡島半島】0.31【樺丹・恵庭】0.32【天塩・増毛】0.32【道東・宗谷西部】0.31【道東・宗谷東部】0.34【日高・夕張】0.35

■推定増加率を用いた捕獲目標の設定について

<推定増加率 $r=1.092$ とした場合の推定生息数>

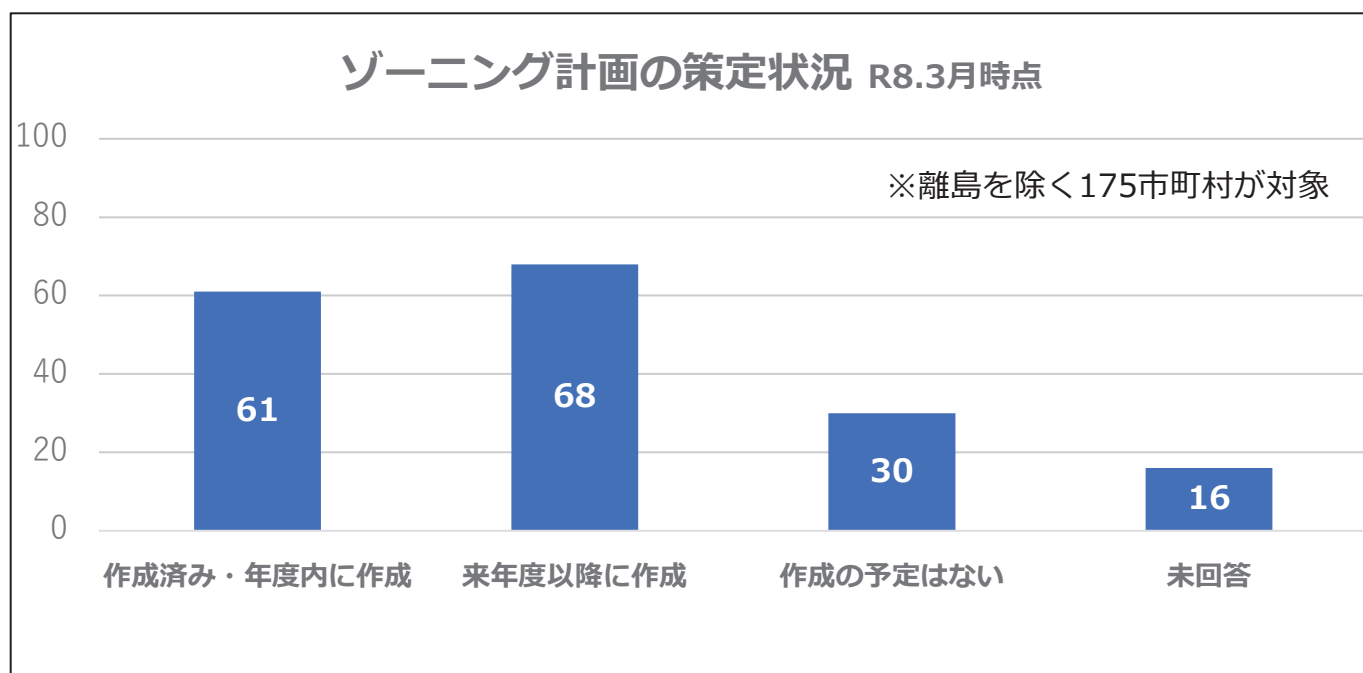
年	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	R13 2031	R14 2032	R15 2033	R16 2034	X	捕獲目標/年 (頭)	メス捕獲数 (頭)
渡島	2,270	2,150	2,230	2,188	2,142	2,093	2,038	1,979	1,914	1,843	1,765	1,681	1,588	1,600	247	77
樺丹・恵庭	940	930	960	925	887	846	801	752	698	639	575	505	428	440	123	39
天塩・増毛	1,040	1,000	1,000	965	927	885	839	790	735	676	611	540	463	470	127	41
道東・宗谷(西部)	2,600	2,370	2,290	2,271	2,250	2,227	2,201	2,174	2,144	2,111	2,075	2,036	1,994	2,000	230	71
道東・宗谷(東部)	1,510	1,370	1,380	1,353	1,323	1,291	1,256	1,218	1,176	1,130	1,080	1,025	965	970	154	52
日高・夕張	4,220	4,150	4,330	4,236	4,134	4,022	3,901	3,767	3,622	3,463	3,290	3,100	2,894	2,900	492	172
全道	12,600	12,000	12,190	11,938	11,664	11,364	11,036	10,679	10,288	9,862	9,396	8,887	8,332	8,380	1,373	452

※ 目指す個体数水準(X)の達成時期を2025年度を始期として10年後の2034年度に設定。
※ 最新である2024年推定生息数から、便宜上2025年も捕獲目標/年に応じた捕獲が行われる前提(計10年の捕獲)で計算。
※ 各地域個体群の2024年推定生息数は、計算された推定生息数(中央値)を採用。なお、全道「12,190」頭は各地域個体群の合計。
※ 各年の推定生息数は、年末時点の推定値。2022～2024年推定生息数については、各地域が一位四捨五入、全道が十位四捨五入。
※ Xが中央値のため、各年の推定生息数については推定値の中央値を採用。
※ 「推定増加率」は、捕獲がなかった場合の個体群の増加率を推定したもの。みかけの増加率(出生、自然死亡、移出入、捕獲といった個体数の増減に関わるすべての要因を考慮した増加率)から捕獲の影響を除外したもので、個体数推定モデル(第2期計画で使用)により推定された個体数と過去の捕獲数から算出する。



R7(2025)～R16(2034)の総捕獲目標数 (推定増加率1.092で算出)		
地域名	総捕獲目標数	うちメス捕獲数
渡島	2,470 頭	770 頭
R7年版との差	220 頭	70 頭
樺丹・恵庭	1,230 頭	390 頭
R7年版との差	200 頭	60 頭
天塩・増毛	1,270 頭	410 頭
R7年版との差	70 頭	30 頭
道東・宗谷(西部)	2,300 頭	710 頭
R7年版との差	80 頭	20 頭
道東・宗谷(東部)	1,540 頭	520 頭
R7年版との差	150 頭	50 頭
日高・夕張	4,920 頭	1,720 頭
R7年版との差	470 頭	160 頭
合計	13,730 頭	4,520 頭
R7年版との差	1,190 頭	390 頭

6. ゾーニング管理の取組状況



ゾーニング計画に基づいた活動の事例

- 出没防止対策等を実施した市町村 27市町村
- 緩衝地帯における捕獲活動を実施した市町村 2市町村

